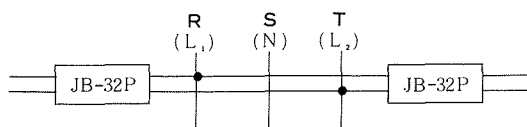
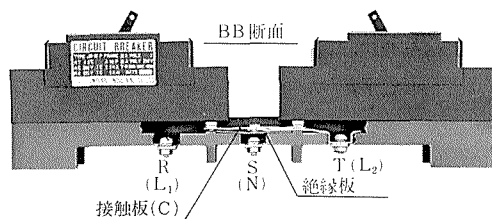
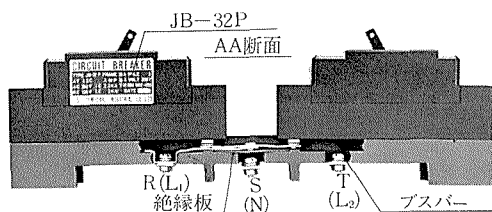
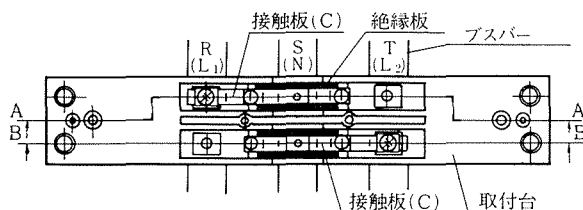


R (L₁) 相と T (L₂) 相から分岐を取る場合

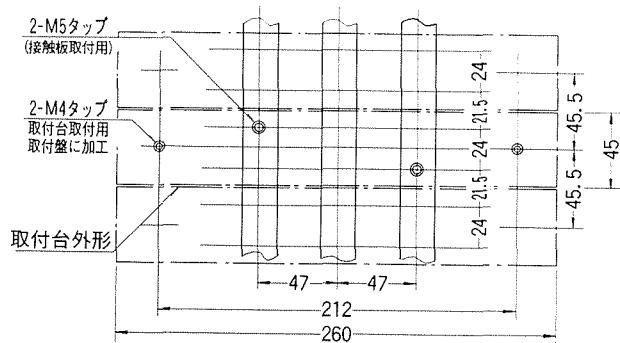
	L ₁ —L ₂	R—T
単相3線式	200V	
三相3線式		200V



- ① 接触板(C)をR (L₁)相とT (L₂)相に取り付けます。
- ② 絶縁板をS (N)相取り出し口の上部に敷きます。
- ③ JB-32P 電源側底面のプラグ接点が接触板(C)の接点に確実に接触するように取付台に取り付けます。



〈導帯加工図〉

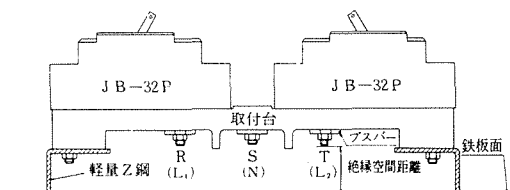


●ご使用上の注意

1. 接触板をブスバーに取り付ける時は、次のことを厳守願います。

- ① ブスバーにタップ加工する場合のブスバーの厚みは、必ず2mm以上のものをご使用ください。
- ② ナット締めの時、必ずバネ座金を使用して、締め付けの完全を期してください。(締め付けトルク 20kg-cm)
- ③ 接触板の取り付け穴は5.5φ ですから、ブスバーへの穴明寸法は5.5φ 以下にし、ボルトは、必ずM5の黄銅ネジを使用してください。ボルト径が小さすぎたり、穴明寸法が大きすぎたりすると、接触板がずれて接触不良の原因になります。
- ④ 接触板(C)をお使いの場合は、必ず絶縁板をお取り付けください。

2. JB-32P を組み込んだ取付台を鉄板等に取り付ける時は下図の取り付け方法を参照ください。



〔注〕 軽量Z銅等を使用し絶縁空間距離を充分とって下さい。

3. 電源側導帯加工図

JB-32Pを取付台に多数並べてご使用の場合は、次の図のようにブスバーを加工してください。この場合、取付台の取付ピッチは45.5mmにしてください。

